

「生活科」学習指導案

1. 日時 令和3年10月
2. 場所 教室
3. 学部・学年・組 小学部 第5学年
4. 単元名 「お届け物」

5. 単元目標

- ・物の正しい扱い方と共に、適度な力加減を知る。(知識及び技能)
- ・「お届け物」の活動や役割を知る。(知識及び技能)
- ・荷物を落とさないように、所定の場所まで運ぶことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・友だちや教師と協力しながら役割を果たすことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・グループのルールを守って取り組もうとすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・友だちや教師と一緒に活動に参加し、自分なりに工夫しようとする態度を養う。

(学びに向かう力、人間性等)

6. 児童観 略

7. 教材観

生活科は、遊びや安全、日課予定の確認など様々な内容があるが、今回は役割のある集団活動「お届け物」に取り組む。近年新型コロナウイルス感染症のこともあり、配達に関する情報を目にするが増え、馴染みのある活動になりつつある。導入部分では、ICT機器を活用し実際に行われている配達の動画を見ることで、活動にイメージをもてるよう工夫していく。

活動場面では、児童の興味のある食べ物を運ぶ内容にしたことで、興味をもてるとともに、手元に注目しながら活動に参加できるようにしており、活動は3つのグループに分かれて所定の位置まで物を運ぶようにしている。グループは児童の実態に応じて編成し、運ぶ食べ物や運び方もそれぞれ異なっている。物が異なることで、物の持ち方や置き方、おぼんの持ち方を知るとともに、適度な力加減も学習できると考える。さらに、運ぶ物の量を調整することで繰り返し取り組むこともでき、たくさんの成功体験をつむことでより多くの達成感の獲得が期待できると考える。

8. 指導観

本活動は児童たちが、社会の仕事を知るとともに、将来の社会生活に向けての基盤となる「役割を果たす」ことを楽しみながら活動できるように設定した。児童たちが活動に参加するには、「楽しそう」「やってみよう」と興味関心をもつことのできる教材と導入方法が大切である。そのために、導入部分で、児童

が期待感をもてるよう ICT 機器を使う等の工夫を行う。また、導入部分では、児童が注目し見通しがもちやすくなるよう、映像と具体物で本時の予定や内容を提示する。

グループごとの活動についても、児童一人ひとりが主体的に取り組めるような支援や、児童の実態に合わせて配達しやすい物を使用する等の工夫を行う。さらに、達成感を感じられるよう、その場で端的な言葉と身振りで褒めることや活動の終わりに良かったところや頑張っていたところを評価したい。また、指導者も楽しみながら行い雰囲気を盛り上げることで、子どもたちがより意欲的に活動に参加できるように引き込んでいきたい。この活動をきっかけに、見通しをもって集団活動に参加すること、ルールを守れることを意識できるようにしていきたいと考える。

9. 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①「配達」という仕事を通して、役割を果たすことで得られる達成感や充実感、役割を果たすことの大切さを知る。 ②「配達物」の持ち方や運び方を知る。	①商品を落とさないように指定された位置まで届ける。 ②目標の達成をめざして荷物を運ぼうとする。 ③ルールを守って取り組もうとしている。	①教師や友だちの活動に注目することができる。 ②自分の順番を意識して待つことができる。 ③できたことを発表することができる。

10. 単元の指導と評価の計画（全 6 時間、本時は第 4 時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
第一次	1	・「配達」の仕事内容を知ろう。 ・届ける食べ物は何に？	・映像と具体物を通して、配達という役割について知る。 ・映像を通して、配達物があることを知る。 ・配達物を持つ。	・映像とともに具体物を提示し、配達の活動内容にイメージがもてるようにする。 ・物を持たせる時に持ち方を伝える。	A① A② B①
第二次	2	・荷物を届けてみよう。 ・「お届け物」のルールを知ろう。 ・届けてみよう。	・前時の復習をする。 ・配達物の持ち方、運び方を知る。 ・配達をする時のルールを知る。 ・ルールを守って配達に取り組む。	・前時の映像を見て活動を振り返るようにする。 ・持ち方や運び方の映像と見本を見せてから、取り組むようにする。 ・できたところやがんばったところを振り返りで褒める。	A① A② B① B② B③ C① C②

第三次	3 ～ 6	・配達物をたくさん届けてみよう。	・繰り返し配達に取り組む。	・運ぶ物を活動回数に応じて増やす。	A①
		・友だちを応援しよう。	・活動中の友だちを応援する。	・拍手で応援するように見本を見せながら伝える。	B①
		・届けた後を見てみよう。	・映像と具体物を通して配達物の届いた後のお客さんの様子を見る。	・できたことやがんばったことを映像や振り返りを通して褒める。	B② B③ C① C② C③

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・配達物を指定された位置まで届けることができる。
- ・友だちの活動に注目することができる。
- ・ルールを守って活動に取り組むことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・配達物を指定の位置へ届けようとしている。
- ・活動している友だちの姿に注目したり応援したりしようとしている。
- ・それぞれのグループのルールを守って取り組もうとしている。

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・テレビ ・予定カード ・ペットボトル 12 ・たこ焼き 12 ・デザート 12 ・児童顔写真
- ・グループ別イラスト 10 ・携帯電話 ・グループ別道 3 ・おぼん 7 ・テーブルクロス 4
- ・ペットボトル収納ケース 1 ・お客さんの看板 3 ・児童机 9

(4) 児童生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
8分 導 入	・あいさつ ・本時の活動内容を知る。 ・「配達」の映像を見る。 ・グループごとに届ける荷物を知る。 ・デザート・たこ焼き・飲み物のグループに分かれる。	・当番を前に出し号令を行わせる。 ・映像を使って本時の予定を提示し、見通しをもてるようにする。 ・映像を通してグループごとに何を誰にお届けするのかを提示する。 ・所属しているグループがわかり、移動ができるよう、イスに写真カードを貼って提示する。	・映像や教師に注目することができる。

27分 展開	・荷物を届ける時のルールを知る。 ・グループごとにお届け物の練習をする。 ・ルールを再確認する。 ・グループごとにお届け物をする。	・映像を通してルールを知るとともに、今までの活動を通してうまくなったところ、頑張っているところを伝える。 ・グループごとに運び方の注意点を言葉や身振りで伝える。 ・待機しているグループには、活動しているグループを応援するように言葉かけをする。 ・練習でできていたところを評価し、がんばってほしいところを再度言葉や身振りで伝える。	◎物を所定の位置まで運ぶことができる。 ◎おぼんの上に物を乗せて所定の位置まで運ぶことができる。 ◎ルールを守って活動に取り組むことができる。
5分 まとめ	・本活動の振り返りをする。 ・あいさつ	・グループごとにがんばったところを評価する。 ・映像を通してお届け物をしたことで、お客さんがどうなったのかを伝える。 ・活動を通して楽しかったところ、がんばったところを児童に聞く。 ・当番を前に出し号令を行わせる。	・映像や教師に注目することができる。 ・できたことを発表することができる。

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す） 略